

第36回 広島・長崎子ども会親善交歓会



広島・長崎子ども会親善交歓会が8月6日～8日の日程で広島にて行われました。36回目の今回は、長崎市から児童・生徒と指導者を合わせて54名が参加し、広島団総勢71名と交流しました。子どもたちは平和について考えたり、新たな友だちと友情を深めるなど、有意義な時間を過ごしました。

広島での3日間

南長崎小学校 6年 古里 夏実

私が、この広島研修で学んだことは、二つあります。

一つ目は、友達と協力して、楽しい思い出が作れたことです。一日目初めて会う広島の友達と会うのがすごくドキドキでした。だけど三滝少年自然の家につくと、広島の子が「荷物、持ちましょうか。」と積極的に話しかけてくれてとってもうれしかったです。そして、入所式が終わって部屋に荷物を置いて、野外炊飯でみんなで作ったカレーライスは、とてもおいしくて、思い出深い味でした。二日目は、宮島に行って、宮島ウォークラリーをやりました。広島のこと分からないので、広島の友達にたよってばかりでした。クイズに一問答えられませんでした。ここまでこれたのは、班のみんなが団結しているからだと思いました。

二つ目は、「平和について考える」ということです。写真では、原爆ドームは見たことがあるけど、本物を見ると、原爆の恐ろしさが分かりました。平和記念資料館では、実際に焼けこげたかわらをさわってみるとすごくざらざらしていました。原爆が落とされる前の広島県と原爆が落とされた後の広島県を見ると全てが粉々になっていました。この事から昔は争いがあり今もどこかで争いがあるかもしれません。だからまず身近なことから友達と協力していきなさいと思います。

お別れ式の時広島から帰りたくありませんでした。広島と長崎の友達が来てうれしかったです。いい経験になりました。

交歓会で学んだ事

日見小学校 6年 東本 凧紗

私はこの交歓会で印象的だったのは、原爆ドームへ行った事です。私は今まで原爆ドームをテレビや本でしか見たことがありませんでした。しかし、生で原爆ドームを見ると鳥肌が立ちました。原爆ドームからは、原爆のおそろしさや、爆だんのすさまじさが伝わってきました。

つまり、原爆ドームは戦争を体験していない私達に、原爆の恐ろしさを伝える事のできる大切な手段だと思いました。

しかし、原爆ドームは67年もの間ボロボロでなんとか建っているという感じだったので、これから何十年も持つとは思えません。それに被爆者の方々もこれから何十年も実体験を話し続けることは出来ません。

そうすると後世に、二度とおこしてはならない原爆の恐ろしさを伝えるのは私達です。なので、このような体験を通して、これからも私たちが平和に対して考えて、後世の人たちに二度とくり返してはならないあやまちを伝えていかなければならないと思いました。

この交歓会に参加して、次は私たちが平和な世界を作っていかなければならないという思いがますます強くなりました。



友だちいっぱい繋げる平和!目指せリーダー!

長大附属中 1年 吉田 萌華

私は今回「広島・長崎子ども会親善交歓会」に初めて参加をしました。今年で第36回と歴史ある交歓会だと知り、正直、驚きました。それも今まで指導者方、先輩方が一生懸命に努力をされ継承されたお蔭だと心から感謝をします。被爆地広島と長崎の子ども達が互いに情報交換をし学び合い、切磋琢磨した雰囲気の中、私たちは前世から学ぶ権利がありますが、勿論、次世代に伝える義務もあります。後世に継承する事が一番大切な事だと私は考えます。学ぶことも大切ですが、その事を後輩に伝える事に一番意味があると思います。これからはジュニアリーダーの先輩から学んだ事を実践し、ジュニアリーダー「空」のメンバーとして恥じないよう毎日の生活の中で5分前行動を心がけ実践していきます。そして今の時代はコミュニケーションが問われています。学習能力は高くてもコミュニケーション能力が高くないと社会に順応できないと耳にしたりするので、この時代コミュニケーションは何よりも一番大切だと思います。私は縁あって出逢った方との繋がりを大切にしていきたいです。交歓会でも沢山の友だちができたので、私の財産だと思っています。広島の子から学んだ事も語り伝えたいと考えます。そして平和を繋げていきます。それから私にこの交歓会に参加するチャンスを与えてくださったこともみらい課の先生方、体調不良での参加だった為、ご心配とご迷惑をおかけしました。団長さん、副団長さん、市子連専門委員の方本当にありがとうございました。

体力に不安がある中の参加でしたが、楽しく、安心して3日間過ごすことが出来ました。新しい発見をし、私なりに成長できた3日間だったと思います。ジュニアリーダー「空」のメンバーとして受け入れてくださり、心から感謝しています。本当にありがとうございました。

天まで届け願い事!!

大浦中学校区青少年育成協議会
事務局 大町 俊介

去る7月22日(日)に、毎年、夏の恒例行事でもある「七夕夏祭り」が長崎市立大浦中学校で開催されました。今年で29年目の開催になるこの行事は、地域の皆様と学校、保護者、子ども達とのふれあいのイベントでもあり、校区の小・中学生の中から「子ども実行委員」を選抜し、お互いにチーム行動の中で学び、考え、協力し合い、大人が見守りながら活動します。また、楽しく地域のふれあいが出来る場でもあります。特に、長さ10メートルを超える竹を準備し、きれいに飾る事も醍醐味の一つです。

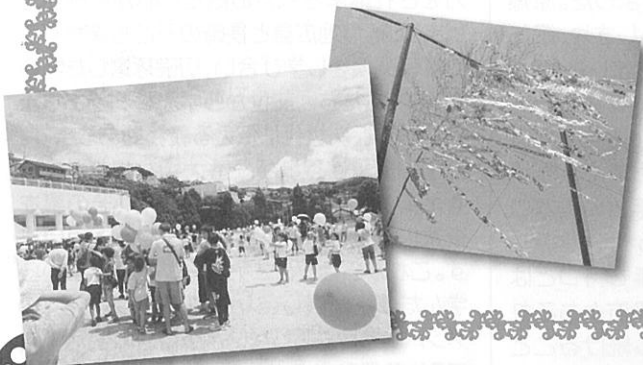
主に、午前中は、屋内でのイベントで、今年は校区内の三校の児童、生徒が自慢の出し物を披露してくれました。また「子ども実行委員」によるゲームも、毎年子ども達は楽しみにしています。午後からは、竹に短冊と飾りを付け、フェンスにかざります。同時に保護者による「露店」もあり、「まつり」は更に賑やかに。そして、短冊に願い事を入れ、風船に付け「さー、皆んなー、風船飛ばすよー、いーち、にー、さーん…飛ばせー」

参加した全ての皆さんが一つになる瞬間です。誰もが天を見ています。誰もが楽しそうにしています。そして誰もが願い事が叶うようにと思っています…過去の実験の体験ですが、この風船が風に乗れ、遠く熊本まで届き、お便りを頂きました。中には、こう書かれていました。

「はるばる、長崎からこの熊本まで飛んできました。願い事が叶うとイイですね」と。

「それだけ飛んだのだから、必ず願い事は叶うよ」と風船を飛ばした子どもに伝えました。飛んだ事にびっくりした様子の子も。

この子どもたちが、やがて大人になり、育った場所で、「あー、この場所で風船飛ばしたなー。楽しかったなー」と何十年も忘れないでいてくれる事が私たちの願いです。



子どもゆめフェスティバル 2012

とき

11月17日(日)
12:00~15:30

ところ

長崎県立総合体育館
サブアリーナ
(アリーナかぶとがに)

子どもたち手作りのゲームコーナー、ステージ発表などの楽しい催しが盛りだくさんです。

全て無料で遊べるので、子どもさん、大人の方、皆様のご来場をお待ちしています!

※昨年までと会場が違いますのでご注意ください

編集後記

“大人が変われば子どもも変わる。子どもが変われば未来が変わる。”現在の私たちの身の回りでは、“面倒なことは先送り”“見ても見知らぬふり、我関せず”の風潮があります。子どもたちの遊びに目を向けても、同じ部屋で別々のゲームに熱中し、それぞれが個々に遊んでいます。

「人とかわりたくない」「グループで遊ぶ楽しさを知らない」多くの子どもたちが現在の自分勝手な大人と同じように見えるのは私だけでしょうか?

子どもたちは、われわれ大人が考えている以上にすごい感性を持っていて大人を評価し、見て、そして、真似しています。

「挨拶は心の架け橋」とも言います。学校にも頻繁に出かける機会が多くなり挨拶する中で子どもたちの頑張りやよさを見つけかかわり合うことの楽しさ、つながりが広がる嬉しさを思い出しています。

いま誰かがするのを待っているのではなく、自分の身近なところで子どもも大人も出来ることから動き始めてみるのです。